

令和8年度 第2回 大学等の質保証人材育成セミナー



独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

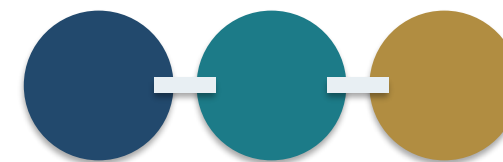
教育改善を「動かす」情報設計

— 教育改善情報のつくり方・流し方・使い方 —

趣旨説明

2026年10月7日（水）

大学改革支援・学位授与機構 研究開発部 鳶田 敏行



今日の問い



データや仕組みがあれば、教育は自然に改善するのか？

情報を集めることなく、「次の行動」へつなげることが今日のテーマ

気づき



対話



判断



改善



フォローア
ップ

「何を集めるか」だけでなく、誰に・いつ・どのように届けるかまで考える



知る → 議論する → 実践する

9/16

第1回セミナー

英仏の制度・英国2大学の実践

質保証を「動かす」機能を考える

10/1

大学質保証フォーラム

英国・フランス・日本

「何を評価するか」「何のために評価するか」を議論

10/7

第2回セミナー | TODAY

日本の大学の実践

教育改善をどう実際に動かすか

今回は「制度」から一段降りて、大学の中で情報をどう流し、改善につなぐかを考える

今日考えたい「情報のロジスティクス」



誰に、いつ、どのような形で届けるか

情報

必要なデータや声は
そもそも見えているか

接続

情報を持つ人と
意味を考える人は話してい
るか

権限・支援

課題を知る人と
決められる人・支えられる
人はつながっているか

問題は「情報がない」だけではない。人・情報・専門性・権限がつながっていないこともボトルネックになる。



今日の2つの事例をどう聞か

芝浦工業大学

教育目標とカリキュラムをどうつなぐか

- DP・mDPと授業科目
- 学修成果の可視化
- カリキュラム評価・改善
- FD・IR・内部質保証
- 現場への支援

「何を目指し、何を見れば改善できるか」を設計する

東京理科大学

データをどう教育改善へ流すか

- 授業アンケート
- 学修到達度測定
- 学習実態調査
- 学修ポートフォリオ
- 組織的FD・対話

「集めたデータを次の行動につなげる」

2大学の方法を「正解」として学ぶのではなく、自大学では「誰が・何を持ち・どこで話し・誰が決めるか」という視点で聞く